



『行動経済学をミクロからマクロへ』 株価データの実証分析を通じて

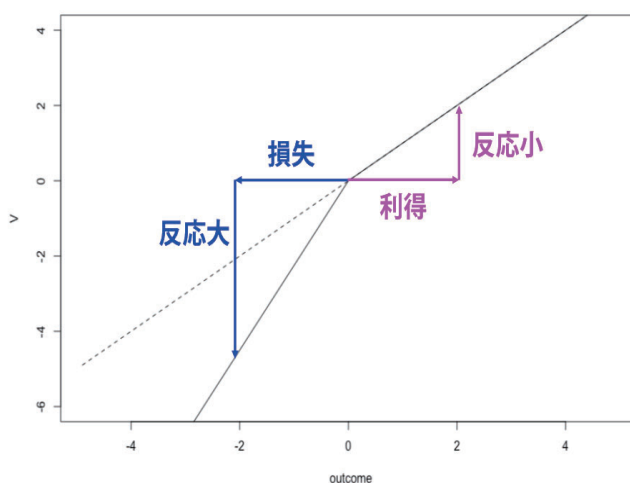
経済学部 経済学科 准教授 早木 祥夏

研究シーズの概要

行動経済学は、様々な実験等により、人々の行動が必ずしも（伝統的経済学が想定するような）合理性に基づかず、もっと複雑で非合理的であることを明らかにしてきました。しかしながら、それはあくまで個人レベル（ミクロ）での性質であって、株価のような様々な人々の思惑が複雑に絡み合う集計レベル（マクロ）の性質までは十分に明らかにできていません。

私は、個人レベルでの意思決定に立脚した集計レベルのモデルを検討することで、個人レベルでの行動経済学の知見がどのように集計レベルに反映されるのかを研究しています。また、モデルから導かれる集計レベルの性質が実際の株価データにおいて観察されるか否かについて実証分析しています。具体的には、行動経済学の知見のひとつである損失回避という性質を検討しています。

損失回避は、利得よりも損失に強く反応することを表しており、直感的には、1万円得たときの嬉しさより、1万円失った時の悲しさの方が大きいことを意味します。この損失回避を個人レベルでの意思決定に反映させることで、株価のリスクとリターンの比率の変化をうまく捉えられるようになるかどうかを検証しています。



【利用が見込まれる分野】 金融経済学、行動経済学

研究者プロフィール

早木 祥夏 / ハヤキ ショウカ



メールアドレス	hayaki.shoka@kagawa-u.ac.jp
所属学部等	経済学部 経済学科
職位	准教授
学位	博士（商学）
研究キーワード	行動ファイナンス、資産価格理論、ファイナンス

問い合わせ番号：EC-22-005

本研究に関するお問い合わせは、香川大学産学連携・知的財産センターまで
直通電話番号：087-832-1672 メールアドレス：ccip-c@kagawa-u.ac.jp